

都市再生整備計画(第1回変更)

さかえまち あじき ちく
栄町安食地区

ちばけん さかえまち
千葉県 栄町

平成25年10月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	千葉県	市町村名	栄町	地区名	栄町安食地区	面積	1000 ha
計画期間	平成 25 年度 ~ 平成 29 年度	交付期間	平成 25 年度 ~ 平成 29 年度				

目標

〇大目標「住み続けたい」「住んでみたい」と思える安全・安心で活力あるまちをつくる

小目標①: JR安食駅周辺のバリアフリー化を推進するとともに、子供から高齢者、障害者など駅利用者・来訪者が利用しやすい施設整備による利便性を向上させる。

小目標②: 適正な道路管理及び整備により、誰もが安全に安心して歩行・走行できる道路環境の実現を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

栄町は、昭和30年12月に旧安食町と旧布鎌村が合併して誕生したが、合併当時10,136人だった人口が、JR成田線の電化に伴い、首都圏まで1時間といった立地条件となったことから、当町にも首都圏の都市化の影響が及び、栄町総合計画(『水と緑の田園観光都市』:3万人都市づくり構想)を昭和47年12月に策定し、3万人都市づくり構想実現に向けて準備に入り、昭和52年11月29日、成田市計画区域に編入。この頃から、安食台・酒直台・竜角寺台・南ヶ丘地区の宅地開発事業が開始され、都市計画区域に編入した当時は9,160人だった人口も、入居が開始された昭和58年には10,989人、平成元年には21,346人を数える順調な増加を見せ、平成8年には26,000人を超え、昭和47年に打ち出した3万人構想は概ね達成した。その後、景気低迷による住宅需要の鈍化、就職や結婚を機に町外への転出者が増加するなど人口が減少しはじめ、平成24年7月1日現在では22,368人にまで落ち込んでいる。

本整備計画における栄町安食地区は、栄町の中心部から東部に位置し、町役場、ふれあいプラザさかえ、JR成田線安食駅、小中学校などの公共施設をはじめ、日用買回り品が購入できるスーパーや銀行などを中心に市街地が形成され、町全体人口の約8割強が居住している。また、役場周辺の安食台地区及び整備計画区域の東部に飛び市街地的に位置する酒直台地区・竜角寺台地区においては、低層低密な戸建て住宅が整然と建ち並び良好な住環境を形成し、3地区合わせ約4200世帯・11000人が居住している。

しかし、これらの大規模開発により転居してきた住民の多くが団塊の世代であることから、ここ数年で少子高齢化が一気に加速し、車を運転できない高齢者が増加傾向にある。また、区域内の道路については、町民はもとより小中学生の通学路にもなっているが、幅員が十分に確保されていないか、経年劣化により無数にクラックが入っている箇所があり、児童生徒が安心して通学できる環境にない状況である。

また、安食台地区からJR安食駅を利用する場合、JR成田線の軌道で市街地が南北に分断されていることから、高低差がある自由通路を渡らなければならない、高齢者や障害者にとっては利用しやすい環境とは言えない状況であり、恒常的に駅周辺のバリアフリー化に関する要望が寄せられている他、安食駅前広場については、バス・タクシーなどの公共交通と通勤通学者を送迎する一般車両が混同し、ロータリー内に滞留してしまうことから、朝夕のラッシュ時には県道から駅前広場に進入することが出来ないような事案が慢性化している。また、安食駅構外に設置されている駅前公衆トイレについては、設置後20年以上が経過しており、老朽化による外観や内装の損傷が目立ってきていることから、利用しやすい駅前トイレへの改善、町の表玄関として相応しい清潔なトイレへの改善に関する要望が寄せられている。また、JR安食駅から町内の公共施設を利用する際に、公共施設等の位置がわからず、来訪者からの問い合わせが多いことから、施設の位置が一目でわかるような案内板の設置が求められている。

更に、整備計画区域内には既存集落も含まれているが、バスなどの公共交通が運行していない交通空白地域もあり、車を運転できない高齢者等にとっては、循環バス(コミュニティバス)の充実による移動しやすい交通環境の整備が多く町民から望まれている。

課題

①JR安食駅周辺については、バリアフリー化の対応が十分でないため、駅利用者からバリアフリー化への改善の対応が求められている。

- i. 南北自由通路のバリアフリー化
- ii. 南口駅前広場の改善による滞留車両の解消
- iii. 老朽化した駅前公衆トイレの改善
- iv. 駅北口から安食台地区に向かう町道11118号線(緑道安食中央線)の改善
- v. 公共施設へアプローチする町道11118号線沿線(緑道安食中央線)他への案内看板の整備

②整備計画区域内の道路は、幅員が狭隘なことに加え路肩が崩れていたり、無数にクラックが入っている箇所が多くみられ、小中学校の通学路であるとともに広域避難場所への避難路でもあることから、歩行者の安全確保を図る必要がある。

③整備計画区域内には、交通空白地域があり、高齢者など車を運転できない、いわゆる「交通弱者」にとっては、十分な移動手段が確保されているとは言えないことから、循環バス事業の充実を図ることが求められている。

将来ビジョン(中長期)

[栄町将来像]

水と緑に恵まれた栄町を、みんなで力を合わせて、住み続けたいまち、住んでみたいまち、誇りと愛着のもてる「ふるさと さかえ」を目指し、町の将来像「ひとが元気 まちが元気 みんなでつくる水と緑のふるさと さかえ」を実現するため、6つの基本目標と3つの重点プロジェクトを政策として掲げている。

[栄町前期基本計画]

本基本計画における重点プロジェクト「定住・移住促進プロジェクト」においては、「住み続けたい、住んでみたい、快適な住環境の整備を推進する」(政策2)の中で、公共交通機関の充実や町道の整備と安全管理の充実等、生活基盤の充実を示している。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値
				基準年度	目標年度
住み続けたいと思う町民の割合	%	これからも栄町に住み続けたい(定住したい)と思う町民の割合	ずっと住みたい+当分は住みたい、と思う町民を現状維持に努める。※H16調査では69%だったが、H22調査では62%に下がっているため現状維持。(町民アンケート調査による)	62	62
安食駅南北自由通路の利用割合	%	安食駅南北自由通路を利用して移動した人割合/1日当たりの安食駅利用者数	誰もが容易に移動できる環境を整備し、安食駅利用者の内、南北自由通路を利用する人の割合を増加させる。(目標値の分子/分母については、H29時点とする)	34.4	40
生活道路における町民満足度	%	生活道路における満足と思う町民の割合	誰もが安全に安心して歩行できる道路整備による町民満足度を向上させる。(町民アンケート調査による)	43.1	50

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>方針1：JR安食駅周辺のバリアフリー化を推進するとともに、駅利用者・来訪者が利用しやすい施設整備を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安食駅南北自由通路のバリアフリー化(エレベーター)設置事業 ・安食駅南口駅前広場改良事業 ・駅前公衆トイレ改良事業 ・駅前観光サイン板整備事業 	<p>《基幹》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○道路 町道2017号線(安食駅南口駅前広場改良)／町道11118号線(緑道安食中央線改良) ○高質空間形成施設 安食駅南北自由通路バリアフリー化事業(エレベーター設置事業) ○地域生活基盤施設 観光情報板設置事業 <p>《提案／地域創造支援事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○駅前公衆トイレ改築事業 ○駅周辺案内板設置事業 <p>《関連事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○定住・移住促進奨励金事業／子育て情報・交流館事業／子ども医療費等助成事業／健やかな成長支援事業／高齢者在宅福祉サービス事業／高齢者生きがい対策事業／学力向上プラン推進事業／特色ある学校づくり推進事業／「栄っこ」夢・元気プロジェクト推進事業／パートナーシップ推進事業／住民活動支援センター管理・運営事業
<p>方針2：適正な道路管理により安全に安心して歩行・走行できる道路環境の整備を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路を良好な状態に保つことで安心して円滑な移動ができる道路整備を進める。また、小中学校については、広域避難所に指定されていることから、万一の災害時に地域住民が安全に安心して避難できる経路を確保する。 ・安全に安心して、歩行・走行できる道路環境の整備に合わせ、高齢者等の日常生活における移動手段を確保し、「住み続けたい」「住んでみたい」まちづくりを推進する。 	<p>《基幹事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○道路 町道11031号線／町道11009号線／町道12001号線／町道1008号線他／町道19007号線／町道12024号線他／町道1004号線／町道11056号線／町道12010号線／町道14046号線／町道2013号線／町道2016号線／町道2011号線 <p>《提案／地域創造支援事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公共施設案内板設置事業 ○町内循環バス車両購入 <p>《関連事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○定住・移住促進奨励金事業(再掲)／町内循環バス運行事業／子育て情報・交流館事業(再掲)／子ども医療費等助成事業(再掲)／健やかな成長支援事業(再掲)／高齢者在宅福祉サービス事業(再掲)／高齢者生きがい対策事業(再掲)／学力向上プラン推進事業(再掲)／特色ある学校づくり推進事業(再掲)／「栄っこ」夢・元気プロジェクト推進事業(再掲)／パートナーシップ推進事業(再掲)／住民活動支援センター管理・運営事業(再掲)
<p>その他</p>	
<p>○定住・移住の取り組み促進</p> <p>少子高齢化の著しい進展、また、結婚や就職を機に転出する若年層が増加し、人口減少率が高くなっている。そこで、現在、栄町に住んでいる方が「ずっと住み続けたい」と思えるまちづくり、また、他市町村の方から見て「住んでみたいまち」として選ばれるよう、「定住・移住促進促進プロジェクト」を総合計画に位置付け、栄町の魅力の発信事業や個別事業を集約し、「定住・移住促進事業群」として取り組んでいく。</p> <p>○学校規模適正化事業による児童生徒の安全確保及び学校施設の弾力的な運用の検討</p> <p>少子化の影響により、全国的にも学校の統廃合の検討が進められているが、当町においても例外ではなく、児童生徒数の減少が続いていると同時に、小中学校の小規模化が進行している。また、複式学級が発生する等教育上の困難さを抱える学校が出てきており、より良い教育環境の整備や教育効果向上のための学校の適正規模、適正配置が喫緊の課題となっている。</p> <p>そこで数年後の実施に向け検討が始まっている学校規模適正化により、遠距離通学を余儀なくされる児童生徒の通学手段(スクールバス等)を確保するとともに、統廃合で使用しなくなる学校施設の有効活用について、庁内及び地域住民も交えた検討会を設置し、弾力的な運用を図り、定住・移住を促進していく。</p>	

都市再生整備計画の区域

<p>栄町安食地区(千葉県栄町)</p>	<p>面積</p>	<p>1000 ha</p>	<p>区域</p>	<p>安食地区、安食1丁目・安食2丁目・安食3丁目地区、安食台地区、竜角寺台地区、北辺田地区の一部、酒直地区の一部</p>
----------------------	-----------	----------------	-----------	---

